

# 平成 25 年度

## 第 3 回 国道 1 号草津川トンネル跡両側敷地活用懇話会 会議録

■日時：平成 26 年 2 月 3 日（月）14 時 00 分～16 時 00 分

■場所：市役所 8 階大会議室

■出席委員：14 名

■欠席委員：2 名

■事務局：

市長、特命監（都市再生担当）、理事（都市再生担当）、理事（景観・交通政策担当）、  
都市建設部 副部長（総括）、都市建設部 副部長（都市計画担当）、都市再生室長、  
草津川跡地整備課（整備課長、整備GL、管理計画GL）

■オブザーバー：

近畿地方整備局滋賀国道事務所、滋賀県都市計画課、滋賀県南部土木事務所

■傍聴者：5 名

### 1. 開会

---

挨拶（特命監）

昨年秋より開催の懇話会も 3 回目を迎えた。先の懇話会で敷地の有効活用・交通動線の考え方について皆様から貴重なご意見をいただいた。本日最終の懇話会では、導入機能の配置といった敷地活用の方向性及び歩行者・自転車の動線に対する貴重なご意見を賜りたい。

### 2. 第 1 回・第 2 回懇話会のまとめと市の考え

---

事務局より、第 1 回・第 2 回懇話会のまとめと市の考えについて説明

### 3. 意見交換

---

事務局からの説明を受けて意見交換

#### 意見交換

【委員 A】今回の資料に区間⑥の北側を通る旧東海道の動線が入っていないのはなぜか。草津川トンネル上を通る旧東海道の動線は残してほしい。駐車場ができて利用者が区間⑤、⑥の間を行き来するには、一旦国道の大路三丁目交差点の歩道を通って回り道しなければならない。区間⑥が東海道の歴史性を考慮した区間なのであれば、歩道橋は必要だと思う。この道は和宮、篤姫、新撰組が通った歴史的に重要な草津の文化的・歴史的資産だと思う。

【事務局】今回は主要な歩行者動線ということで北側の旧東海道の動線は入っていない。国道の上の立体交差については、歴史性・土地利用において重要な役割を果たすことは市として理解しているが、現時点において具体的議論ができていないため図に示していない。

【委員 B】旧東海道の歴史、文化は地域に住む人々にとって大切なものであり受け継いでいかなければならないもの。国の工事と市の取り組みのなかで、旧東海道の歴史性についても考慮いただきたい。

【会 長】歴史性・回遊性・連続性の観点から立体交差事業は必要ではないか。市単独では難しいので、国のほうにも支援いただければと思う。

区間⑤の土地利用について、現状 3 つの盤面で分割されており、上段・下段を駐車場、中段を広場としているが、上段と中段の土地利用を入れ替えてはどうか。満車の場合の移動や、駐車場内の通路の配置等を考慮すると、改善する余地もあるのではないかと。

【事務局】車両の誘導の観点から、上段と下段にそれぞれ入口を設け駐車場と位置付けてはいるが、ご提案いただいた利用にも対応できるよう、駐車場の具体的台数については広場の内容を考慮した上で設計していきたい。

【会長】駐車場の面積が大きいので、エントランスとしての品格を損なわないための植栽や緑化ブロックなど、修景にも配慮することが重要だと思う。

【委員C】バリアフリー化は、基準だけでなく実際に利用される身体障害者の方の意見も取り入れて行ってほしい。

【委員D】区間⑥の堤防は、生活を中心に考えると撤去するほうがよい。その中で、一部は歴史としての道を残すような方法をとってほしい。また、区間⑥は草津市の整備区間だけで考えるから、勾配が急になるのだと思う。

【事務局】区間⑥は、時と人の出会いというのが基本計画の整備テーマであり、旧東海道を現在の主要幹線の国道1号ならびに東海道新幹線が横切るということで過去と未来が繋がる空間を表現していきたい。また、区間⑥の整備方針については、栗東市も含めて整備を行うと勾配はゆるやかになる。同様に栗東市を含めて平地化を検討する可能性もあるが、現状草津市内での整備方針を示している。今後栗東市を含めて区間⑥の土地活用について議論し、具体的に検討を進めていきたい。

【副会長】区間⑤、⑥ともに北側の地形が一部残らざるを得ないが、コンクリート擁壁となるのか、緑化によるゆるやかな斜面となるのか。それによって印象が変わってくると思う。

【事務局】景観に配慮しながら、土地活用に必要な面積の捻出やコストの問題について十分議論して考えていきたい。

【副会長】市の考えのひとつに「魅力的なエントランスの形成」とあるが、全体の基本的なコンセプトやキーワードについても示した方が市民の方にとって分かりやすいのでは。

【会長】今の意見を受けて、回遊性、拠点性、実用性の3つの柱は大事であると思う。今回検討している区間周辺は、川の道と人の道、それぞれの道が大きな流動性を持っているという歴史的な特徴があり、どのように整備され、回遊性が増していくのか。また、中心市街地との関係も合わせて拠点性というものは重要である。そして今後どのように整備計画が進んでいくのかという実用性の3つの柱は大事だと思う。色々な要望に対し、先の工事、中期工事、そして長期的な展望と状況に応じ、コストの問題や栗東市との調整等変化していくため、その変化に耐えられるような、しなやかな対応が重要。また、市民の参画、NPOの方々、委員の参加によって空間を育て、マネジメントしていくことは大事である。

【委員B】市が主体の今回の懇話会で得られた意見については、国の事業の方にも活かされていくのか。国の事業で国道1号トンネルを撤去し、残りを草津市で行う場合、意見で出た歩道橋設置や、堤防撤去など大変だと思う。国の方で今回の意見の内容を検討していただく余裕はあるのか。

【会長】まちづくりや社会基盤施設の整備を行うプロセスとして、まず草津市の方で、市に関連の深い方々の意見・要望等を整理しとりまとめていき、その後関係機関との連携、協働へと進めていくものである。

【事務局】会長のご意見の通り、この懇話会については市がトンネル撤去後の両側の土地活用について関係する方々のご意見聞く場として設置しており、市が取りまとめを行ったのち関係機関へ連携協働事業として進めていく必要があると考えている。

【委員C】(※国の立場としてではなく、あくまで一委員としての見解です。) 今回の懇話会は、国のトンネル撤去事業と、市の草津川跡地整備について意見を頂戴する場を設けた。国の設計と市の整備内容によって、全体の事業費が定まり、国の負担、市の負担するお金の割り振りが決まる。国と市で調整し、立体交差の話なども含めて、今

後決めていくことになると思う。

【委員E】(※国の立場としてではなく、あくまで一委員としての見解です。) 今回の様な事業・まちづくりを行っていくためには国だけでなく、民間の力も借りていかないと事業としてうまくいかない。国、県、市が関連して事業を進めていくにはタイミングや段階を踏む必要があるため、そういったことを考えていくための材料として皆様のご意見を参考にさせていただいている。

【委員D】 前回懇話会で話にあがった商店街、観光とのつながりについてはどう考えているか。

【事務局】 市の中心市街地活性化基本計画では、草津駅を中心として駅西エリア、駅東エリア及び本陣周辺エリアと3つのエリアを中心市街地エリアと決定しており、その中で東西に分断している草津川跡地を1つの拠点としてとらえ、整備事業に取り組んでいる。また、野村運動公園、西友跡地の市民総合交流センター等の整備を行っている事で、それぞれに拠点性を持たせて、拠点間の回遊性を高めるような基本計画を進めている。そして今回、国道1号のトンネル撤去に伴い、国道を通る車からのアクセス性を活かして、中心市街地への人の誘いが期待できるため、ハード・ソフト面で更に計画の変更も考えていこうと考えている。

【委員F】 国道の歩道設置について、新たに歩道を設けるために国道の中央分離帯を狭めるのか。

【事務局】 ご指摘通り、中央分離帯を狭めて両側に歩道を設ける計画を進めている。

【副会長】 今回の懇話会を含め、色々な意見が出た。実際、導線のイメージ・土地活用のイメージを踏まえ設計へ入っていくと、また色々な課題・意見が出てくることが想定されるため、引き続きコミュニケーションの場を設けて頂きたい。

【会 長】 こういった懇話会での皆様の意見がどの程度反映されているのかを認識でき、これからの創造についてもご意見いただける様な仕組み作りを今後検討いただきたい。

## 4. 今後の進め方

---

事務局より、今後の進め方について説明した。

### 質疑応答

【委員G】 今回の検討区間周辺の完成はいつ頃か。

【事務局】 区間⑥は、完成時期について栗東市と調整が必要であり、現時点では未定。区間⑤は、国道擦り付け区間以外について平成28年に整備を目指している。区間⑤の擦り付け区間についても、平成26年度以降着手を速やかにしていきたいと考える。

【委員D】 栗東市とは現在、今後も調整はとっているのか。

【事務局】 栗東市とは広域行政調整会議というものを設置しており、草津川跡地の課題について意見交換を進め、早期に取り組むよう努めている。

【委員D】 具体策はどうなっているか。平成26年度からと書いているので、平成25年度は1回もやっていないのか。

【事務局】広域行政調整会議の中で議論は今年度、昨年度もさせて頂いており、国道1号トンネルにかかる工事についても栗東市の方へ情報提供をしている。平成25年に国の方で事業が確定したので、出来るだけ早期に取り組んでいけるよう栗東市の方と協議を進めている。

【副会長】トンネル撤去が先に行われるという事は、その後の跡地は一旦どういう形になるのか。柵で囲われた様な、建設途中の状態になるのか。

【事務局】現時点でどの様な形でというのは具体的に描けていない。区間⑤は出来れば来年度、早急に着手したいという風に考えているが、国の事業の進捗状況を把握した上で考える必要がある。現時点で、具体的には説明出来る状況ではない。

【委員H】実際事業に関わってくる高台付近に住む住民の方達にもっと話合いの場や意見交換の機会をお願いしたい。

## 5. 総括

---

会長より、懇話会全体を通じての総括

## 6. 閉会

---

閉会の挨拶 (市長)